

## 石清水八幡宮と男山

石清水八幡宮は 1200 年近くの歴史を持っており、長い間、日本で最も重要な神社のひとつに位置付けられています。天皇、将軍、貴族、武士、商人、そして庶民は皆、何世紀にもわたってここに敬意を払ってきました。八幡神は、京都と皇室の守護者として信仰されてきたため、人々は石清水八幡宮へ厄除けを祈願しに訪れ、それは今日まで続く習慣となっています。

僧侶である行教が 859 年に石清水八幡宮を創建しました。彼は九州の宇佐神宮を訪れ、八幡神から「吾れ都近き男山の峯に移座して国家を鎮護せん」というお告げを受けたとされています。この御託宣を受けて八幡神は男山に遷座され、そして 860 年には朝廷の命による石清水八幡宮の社殿の建設が完了しました。

石清水八幡宮は、皇室、源氏の伝説的な武士、権力のある将軍や金持ちの領主など、その歴史を通じて多くの著名人から支援を受けました。石清水八幡宮は次第に拡大し、14 世紀～19 世紀半ばにかけてほぼ男山全体へ広がり、大きな本社、末社、そして数多くの寺院がその中にありました。山のふもとの町は、宗教的巡礼者や大阪と京都の間を移動する商人、そして石清水八幡宮の多くの神職や僧侶を迎える町として栄えました。

何世紀にもわたって、石清水八幡宮は、神道と仏教の両方の宗教的要素を組み合わせた複合体でした。神道の神聖な存在（神）と仏教の神聖な存在（仏陀や菩薩）を同じ場所に祀ったり、融合したひとつの存在として崇拝したりするこの信仰は、もともとは 6 世紀に仏教が伝来した後に日本の一部の地域で起こったものです。八幡神への信仰が特に篤かったため、石清水八幡宮の持つ影響力は大きく、神仏習合の発展と八幡神信仰を日本中に広める上で大きな影響を及ぼしました。この神仏習合は、明治政府が 1868 年に宗教を分離する命令を出すまで、1000 年以上続きました。その後、仏教の要素は境内から取り除かれました。

石清水八幡宮は、現在でも全国有数の神社の一つです。その長い歴史や神仏習合の宗教的伝統、そして注目すべき建築物で知られています。2016 年には、本殿を含むいくつかの建造物が国宝に指定されました。男山山頂にある豪華な装飾が施された本社は 17 世紀に建てられたもので、八幡造り建築の数少ない現存例の 1 つです。神社の境内には、多数の小さな神社、鳥居、灯籠が並び、小道、竹林、神聖な井戸、山中に点在する史跡もあります。